



Love from
Yokosuka

政務活動
報告書

季刊紙
Vol.13

人も社会も健康に!

やす かわ けん と

安川 健人

マッスル議員

横須賀市議会議員 無所属 無会派

プロフィール KENTO YASUKAWA

- ・ 1960年 9月25日生まれ O型 天秤座
- ・ 俳優・シェフ・元 鎌倉市議会議員
- ・ 横須賀市 浦賀地区 在住
- ・ 趣味: 筋トレ (2025 BEST BODY JAPAN 日本大会)
- ・ 明治大学大学院 修士課程修了 (公共政策修士)
- ・ レジェンドクラス 優勝)

特集 災害に強い横須賀へ

— 自助・近助・共助・公助で
高める地域の防災力 —

台風25号により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。
また、復旧・復興に尽力されている関係者の皆さまに、心より敬意と感謝を申し上げます。

意見 提案

9月の一般質問では、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を削減する「緩和策」と、気候変動による被害を回避・軽減する「適応策」の双方を迅速に進めるため、環境政策と危機管理政策の連携をこれまで以上に強化する必要性について質問しました。

特に訴えたのが、災害時の「電源」の確保です。電力は、デジタル時代における「ライフラインを支えるライフライン」です。停電すれば、照明だけでなく、スマートフォンやインターネット、エアコン、冷蔵庫、調理器具など、私たちの暮らしを支えるさまざまな機器が使えなくなります。そこで、ポータブル電源と可搬型ソーラーパネルを組み合わせ、各家庭に「小さな自立電源」を備えることを提案しました。先行自治体の補助制度も参考に、横須賀市でも購入支援を含めた普及促進策を進めるよう求めました。また、災害に強いまちをつくるには、行政による「公助」だけでなく、自ら備える「自助」、身近な人同士で助け合う「近助」、地域で支え合う「共助」を高めていくことが重要です。そこで、パルクール、自衛隊、米海軍基地、消防、地域などが連携し、楽しみながら防災を学ぶ「防災運動会」を提案しました。



本会議場にて

回答 対応

市長からは、「ポータブル電源は、在宅避難をより不安なく過ごすためにも大変有効であり、先行自治体の取り組みを研究しながら、効果的な普及促進策を検討していく」との答弁がありました。市民室長からは「脱炭素の推進」と「災害時の対応力向上」の両立が図られるよう、これまで以上に関係部局が連携して取り組んでいく。との答弁がありました。

※詳しくはホームページをご覧ください。



その1

停電で実感した『電源のある安心』

台風25号で我が家が停電したのは、ちょうど夕食時でした。突然、家の中が真っ暗になりましたが、太陽光で充電していたポータブル電源にスタンドライトをつなぐと、リビングがぱっと明るくなりました。キッチンで調理ができ、パソコンで最新情報も確認できました。電源があるだけで、明かりも、食事も、情報も確保できる。その安心感を身をもって実感しました。

太陽光とポータブル電源の組み合わせは、脱炭素につながる「緩和策」と、停電への備えとなる「適応策」の両面に寄与します。



その2

災害時に温かい食事を「防災キッチンカー」

三浦半島4市1町と日本テレビの連携により整備。災害時には避難所などで温かい食事を提供し、平時には防災啓発にも活用されます。



「4市1町の首長とゆるキャラ」



その3

安心できるトイレ環境を「トイレカー」

横須賀市が整備した災害用トイレカー。災害時の避難生活で欠かせない清潔なトイレ環境を確保し、被災者の安心と尊厳を支えます。



「武士団・三浦一族のイラスト」

強く、
優しく、
カッコ良く!

編集後記

西叶神社の例大祭で、初めて神輿を担がさせていただきました。子どもから高齢者まで大勢の人が集まり、声を掛け合いながら地域全体が一つになる光景に、祭りや神輿には、地域の絆を育み、いざという時に立ち直る力＝地域のレジリエンスを高める大切な役割がある。地域の底力を身体で感じた、忘れられない経験になりました。

- Be Strong. Be Gentle. Stay Cool -

Kento Yasukawa

現地・現場主義!
どこへでも
駆けつけます!



横須賀市議会議員

安川 健人

公式サイト・
SNSはこちら

